

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	本年度、おおむね確立することができた「毎時間の振り返りの時間の確保」や「振り返りを生かした課題の設定」については、次年度も継続して取り組んでいく。また、書き込み式ドリルやドリルパーク、がんばりタイムの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習にも継続して取り組ませていく。家庭との連携も図りながら、児童が主体的にどのツールで学ぶかを選べるようにしていく。教職員がさらに、積極的に一人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を実践できるようにする。また、授業実践の成果と課題を共有するための環境整備や授業力の向上のための一人1授業以上の公開を継続して行う。	
思考・判断・表現	本年度、「評価規準を示すこと」については定着してきたが、継続して実施することに課題がみられることから、学校全体で「学習のルール」の中に「学び方」を盛り込んでいく。また、児童主体で振り返る手立てについても共有を図っていく。さらに、必要感のある課題設定、主体的に解決する場面の設定について、次年度の学校課題研究で授業づくりの柱の一つとして取り組んでいく。中間期見直しで掲げた「次の学習につなげる」「実生活につなげる」学習指導の機会は増えたが、内容を取捨選択が必要であることから、デザインマップにおいて重点的に取り組む単元を決め、校内で共通理解をして指導を行っていく。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。反復や振り返りが十分に確保できていない。	⇒ 授業の最初に前時の学習をミニテスト等で振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する【毎時間】。 書き込み式ドリルやドリルパーク、らっこたんの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する【週に1度】。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を行ったり、スクリーンボードを活用したりして、成果と課題を共有する【1か月に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「測定」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させる必要がある。児童主体の学習活動の機会が十分に確保できていない。	⇒ 話を確実に聞くことを主眼に置いて指導を行う。また、評価規準を児童に示すことで、児童主体の振り返りが充実できるようにする【毎時間】。 教科横断的な視点や、体験的な学習を取り入れ、学びの深まりを意識したカリキュラムマネジメントを行う【週に1度】。 ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定を行う【1か月に1度】。

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B		年間を通して、学習内容の振り返りとそれを生かした本時の課題設定についてはおおむね定着している。また、書き込み式ドリルやドリルパーク、がんばりタイムの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習にも継続して取り組ませることができた。どのツールで学ぶかを児童が主体的に選んで学ぶことができるようにしていきたい。年間を通して、積極的に1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を行うことができた。また、一人1公開授業を全教員で実施することができた。中間期見直しで掲げた読書活動の充実については、秋の読書月間を設け、図書委員会や教職員による「おすすめ本の紹介」、「読み聞かせ」など、児童が本に親しむ機会を増やすことができた。
思考・判断・表現	B		年間を通して、話を確実に聞くことを主眼に置いて指導を行うことができた。評価規準を児童に示すことはおおむねできていて、学校全体で継続して実施できるようにしていきたい。また、どの学年でもICTを効果的に活用した授業を行うことができていく。R7さいたま市学習状況調査「(教科)」は好きですか。に対する肯定的な回答の割合はわずかに増加したが、必要感のある課題設定、課題を主体的に解決する場面の設定する取組を充実させていくことが課題である。中間期見直しで掲げた「次の学習につなげる」「実生活につなげる」学習指導の機会は増えたが、どの場面でもどのように取り上げるかを取捨選択する必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		国語では、言葉の特徴や使い方に関する問題において課題が見られた。解答類型をみると、推察前後の文章の違いを正しく読み取ることができていない児童が多く、文章を読み取る力が不十分であると考えられる。算数では、場面の数量の関係を捉え、式に表す問題において課題がみられた。問題文が長くなるほど、正答率が低くなる傾向がみられ、読書の量と質を向上させていくことが課題となる。R7年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいるか」や「自分に合った教え方、教材、学習時間であったか」に対する肯定的な回答の割合が大きい。今後も児童主体の個別最適な学びを進め、学びの楽しさや実感ができる「本気で学ぶ」ことができる授業を創造しているよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現		国語の「書くこと」では、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することにおいて課題が見られた。算数では、「数と計算」「データの活用」の領域において課題がみられた。示された情報に基づき、必要な数値を読み取って式に表す力や複数のデータを比較しながら情報を収集していく力が不十分であると考えられる。また、学んだことを次の学習に生かしたり実生活に結び付けたりすることも課題となる。R7年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙「自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫している」や「次の学習や実生活に結び付けている」に対する肯定的な回答の割合は高い傾向にある。これまでの手立てを引き続き実践するとともに、ICTを活用した振り返りを充実させ、さらにその振り返りを次の学習に生かしていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		国語では、全学年を通して「言語の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられる。学校課題研究での取組として「子どもを主語にした学び」に重点を置いた授業改善を試みており、その成果が表れている。算数では、全学年を通して「数と計算」に課題がみられた。ドリルパークや「がんばりタイム」、課題克服ソフト等を活用して基礎的・基本的な知識・技能を強化していくことを教職員間で共通理解した。昨年度課題がみられた国語の「主語と述語の理解」に関する問題では、正答率の上昇がみられた。昨年度の課題として指導を継続してできた成果であると考えられる。課題を確実に把握して指導につなげることを引き続き大切にしていく。
思考・判断・表現		全ての学年・教科において、平均と比べると「思考・判断・表現」に大きな課題がみられる。この結果を重く受け止め、「思考・判断・表現」の育成を最重要課題と位置付ける。問いの質の向上、書く活動の保障、協働的な学びの質的改善、振り返りの充実を柱とし、全学年・全教科で組織的に授業改善を推進する。「(教科)は好きですか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、R6同集団より国語科・理科・G・Sではおおむね向上したが、算数科と社会科では伸びがみられなかった。また、「学んだことを次の学習につなげる」「学んだことをほかの学習で生かす」の質問に対する肯定的な回答の割合はR6同集団に比べて向上した。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学習内容を振り返り、それを生かして本時の課題を設定する流れは共通理解しているが、実施において課題がある。書き込み式ドリルやドリルパーク、Solarームの活用を通して、一人ひとりが自らの課題に合った学習に取り組むことができていく。一人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を共有することができている。	文章を読み取る力を向上させるために、読書活動の充実を図る【秋の読書月間の実施】。
思考・判断・表現	B	人の話を確実に聞くことを主眼に置いて指導を行うことができていく。本時の学習課題や評価規準を児童に示すことは概ねできていくが、学校全体での実施には課題がある。児童主体の振り返りが不十分である。ICTを効果的に活用して授業を実施することができていく。魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定する取組はまだ不十分である。今後の授業づくりの柱として研修に取り組んでいく。	左記の手立てを実践するとともに、「次の学習につなげる」「実生活につなげる」指導を行っていく【毎時間】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)